

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課	
施策	22	商業・サービス業の振興	評価 責任者	小原 勝博	内線 3710
小施策	22-2	ロジスティクス機能の充実	評価 シート 作成者	高橋 久幸	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生鮮食品などの出荷団体や小売店などのニーズに対応した市場の役割が求められており、品揃えの充実と集荷力の向上を図るとともに、公正かつ迅速な取引を確保し、消費生活の安定を図っていく必要がある。		生鮮食料品等を安定的に供給するため、出荷団体や小売店などの連携を強化しながら、品揃えの充実と集荷力の向上を図り、活発な市場取引を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
流通業者		効率的なモノの流れが促進される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 中央卸売市場年間取扱高	百万円	↗	当初値 (H25) 34,844 H31目標値 35,000 H36目標値 35,000 34,844 34,887 34,823 32,833 	⇒	・市場内共用部分と開設者使用箇所照明の電気使用料が削減された。 ・市内小学校の市場見学者が増加した。 ・共用部分と開設者使用箇所の照明を蛍光灯等からLEDランプに変更したため。 ・市内校長園長会議を市場で開催し、施設見学や市場行事の説明、市場施設の視察を実施したため。
指標② 卸売・運輸・通信業者数	事業所	↗	当初値 (H24) 1,619 H31目標値 1,700 H36目標値 1,780 1,619 1,720 1,690 	⇒	・卸売・運輸・通信事業者数は、基準年と比較して増加してきている。 ・消費者ニーズへの対応のため、多様な流通形態が形成されているものと考えられる。 ・卸売・運輸・通信事業者数は、基準年と比較し増加傾向にあるものの、市場の年間取扱高は減少しており、生鮮食料品等の安定供給、効率的な物流に対する市場の役割が相対的に低下してきている。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・青果部、水産物部とも取扱量・取扱高の減少傾向	⇒	・少子高齢化・人口減少による食糧消費量の減少 ・消費者ニーズの多様化 ・国産農林水産物生産量の減少 ・卸売市場経由率の低下
			・卸売・運輸・通信事業者数は、基準年と比較し増加傾向にあるものの、市場の年間取扱高は減少しており、生鮮食料品等の安定供給、効率的な物流に対する市場の役割が相対的に低下してきている。	⇒	・少子高齢化・人口減少による食糧消費量の減少 ・消費者ニーズの多様化 ・国産農林水産物生産量の減少 ・卸売市場経由率の低下

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
★ 場内業者・開設者が一体となり、「市場活性化ビジョン2017平成30年度行動計画」に沿って取組を実施する。 ☆1 「市場活性化ビジョン2017平成31年度行動計画」により取り組む。	
★ 場内業者・開設者が一体となり、「市場活性化ビジョン2017平成30年度行動計画」に沿って取組を実施することにより、市場の活性化を図ることで、生鮮食料品等の効率的な物流を図っていく。	

※経済センサスにより調査している項目のため調査年度のみ掲載